

# 牛久市歯科医師会理事会報告書

専務理事 秋山文也

日時：平成21年10月5日（月）

場所：牛久市生涯学習センター

参加者：大字、森谷、中澤、秋山、飯島（清）、兼久、川崎、長江、山田

オブザーバー：深沢

## 協議事項

### 1、保健センター乳幼児検診に於けるゴム手袋使用の件

保健センターより、インフルエンザを含む感染症対策のため9月14日から、乳幼児健診の際に個々の受診者ごとニトリル手袋を交換するように、またベースン（手指消毒剤入りボウル）は撤去することにしたと、9月24日付で一方向的に会長へメール連絡があった。

牛久市歯科医師会は従前より、事業内容の変更追加などを検討する場合は必ず事前に連絡・相談するよう保健センター側に再三の申し入れをしていた。それにもかかわらずすでにそのような形態で3名の先生が健診を実施したとのことであったため、理事会で協議の上10月9日、大字、中澤、秋山、川崎の4名で健康管理課を訪問、以下のように改善するよう厳重に抗議した。

- ① ベースンやタオルは以前のように設置すること。
- ② ベースンによる手洗い効果が気になるなら、検診室を水道付の部屋に変更すること。

その上で感染予防の充実のため次のことを提案した。

- ① ニトリル手袋のサイズをそろえる。  
数は既に健診の人数分用意されているので受診者ごと手袋を換えることも可能だが、サイズがS・MのみだったのでLも用意するように申し入れた。→改善済み
- ② 流水による手洗い及び薬用石鹸の設置  
流水による手洗いにより十分な感染予防の効果が期待できるのは明白であるので、水道水で自由に手洗いが出来る場所（隣のTBIをやっていた部屋）への健診室の変更。→改善済み
- ③ ペーパータオルの設置（出来ればエアータオルで）  
ニトリル手袋は滅菌済みとは限らず、信頼のおける材質で乾燥させたい。→今後検討

理事会は保健センターから会員に手指消毒の画一的な要求はせず、従来のベースンによる手洗いを含め流水での手洗いや手袋のこまめな交換等現場のDr.の必要に応じた判断を尊重するよう申し入れをし、理解を得た。但し感染・衛生に対する住民の関心は昔と比べ格段に高まっており、我々も襟を正して感染予防に務める必要があることは紛れのないことと思われる。

また保健センターの情報をこまめに我々に提供できるシステム作りをするよう強く申し入れをしたところ、健康管理課高谷課長は10月中に改善策を報告すると約束した。

### 2、寄付金について

- ・ 例年、以下の2団体への寄付を行っている。
  - 日本赤十字→5万円
  - 社会福祉協議会→1万円
- ・ 歯科医師会との関わり（介護保険関係）を考慮し、日本赤十字側を減額し、社会福祉協議会側を増額し来年から以下の通りとする。
  - 日本赤十字→3万円
  - 社会福祉協議会→2万円

### 3、保健センターでの1歳半・3歳児検診のマニュアル作成について

牛久市歯科医師会ホームページに随時更新中。(詳しくは Dr.長江まで)

### 4、その他

- ・ Dr.川崎による「歯の健康新聞」第2号は11月8日付けで乳幼児検診の参考資料内に加えられ、また保健センター受付前に設置。
- ・ 牛久市歯科医師会規則は涉外分科会で検討中。あらかじめ会員へ配信し総会の際に承認を求める予定。
- ・ 忘年会・総会日時：平成21年12月19日(土) PM7:00～ 場所、その他については後日配信予定。